

第4章 操作性・パフォーマンスへの配慮

4.1 バックグラウンドで処理をする

👁️ 常駐させるには？

4.2 レイアウトを効率的に組む

4.3 リソースをこまめに解放する

4.4 不意のメモリ不足に対応する

4.5 GCを抑制する

4.6 アプリ内課金を有効に使う

4.7 画面回転に対応する

4.8 機密情報を保護する

4.9 プロファイルを取る

4.10 文化を尊重したレイアウトを使用する



操作性・パフォーマンスへの配慮



師範！ Androidは高性能な機種が多いですよ？ またアプリをいろいろ見ても、そんなにUIの統制がとれていないように思えます。そこまで神経を使わなくても、気楽に作れて公開できる。自由って素晴らしいですね！


ふむ… Androidは確かに高性能な機種が多い。また、アプリが好き勝手にUIを定義できるのも事実。しかし、そうかといってユーザへの配慮を欠いたUIが受け入れられると思うか？ もっさりしたアプリはどうじゃ？



うっ… いえ…

ふむ… 全てはユーザあつてのことなのじゃ。では、行くぞ。





Androidアプリに限らず、スマートフォンやタブレット端末はどんどん進化していきます。当然、速度も速くなります。また、アプリもそれぞれの使いやすさを追求し、独自のUIを搭載しているものも少なくありません。しかし、本当の意味でユーザにとってやさしいアプリとは、何なのでしょう？

この章では、いくつかの心得を通して主にユーザ側から見た「使いやすさ」、操作性やパフォーマンスへの配慮を中心にベストプラクティスを紹介します。

